

## 巻頭言

# 『アトランティス物語』

会長 渡辺豊和

アメリカの有名な超能力者エドガー・ケイシー（一八七七〜一九四五）はアトランティス文明の様態をリーディングによって復元したのによく知られている。彼が復元した姿と私が復元したものと似てもいるが違ってもいる。最も大きな違いはケイシーが一万年以上前に海没したアトランティスで原子力潜水艇やレーザー光線兵器など現代科学技術顔負けの高度技術を駆使していたということだ。しかし彼の次男エドガー・エヴァンス・ケイシーの『アトランティス物語』（林陽訳・中央アート出版社）をよく読むとケイシーは自分と同時代の人々の心の奥深くに眠っている願望を明るみに引き出して見せる読心術の天才であって彼は人々の深層の願望を探ること人類の近

未来を予言したということのようである。彼が死去した一九四五年には原爆が發明され広島、長崎に投下されたがそのことを彼は予知できたのだ。しかし彼はそれを近未来の予知とは思わずアトランティス文明の末期の姿としてとらえた。というのも彼のリーディングは依頼者の前世を讀み取ることであったから人類の近未来の高度科学技術をアトランティス科学の輪廻転生の結果とみなしたのでろう。言い換えれば人類の近未来は高度科学技術の時代だがそれはアトランティス科学が輪廻転生して発現するものであるということにつきる。私が探りえたアトランティスとは夢見、見立ての文明だった。これは私自身が「地球結晶」の稜線上あっちこつちに足を踏み入れてはじ

めて得られたイメージだ。ところでケイシーは一九四〇年に「ポセイデア（彼はアトランティスの首都という）は再び浮上せるアトランティスの最初の一部となるであろう。一九六八、六九年これを予期せよ」といいフロリダ沖四五マイル（七二キロ）ビミニ諸島近くをその場所と指定していた。ところがまったく予言どおりに一九六八年にビミニ島沿岸に巨石群が続々とあらわれはじめた。最初は飛行機で上空からパイロットが偶然発見したのだがケイシーの予言と一致するので大騒ぎとなった。これ以後海洋考古学者によって遺跡が確認されるに至る。私の「地球結晶図」ではバハマ島が交点にあるが、そのバハマ交点から西に走る稜線上にビミニ諸島がある。私のアトランティス探求上でもビミニ島は重要地点であることを告げている。私が読んだ『アトランティス物語』は〇二年発刊だが私の『文明の輪廻転生』の構想は二〇〇〇年には相当細部まで出来あがっていた。だから

この本の影響はまったくくない。それでも似た記述が多い。

「太陽光が結晶体に向けられて高圧の放射力が生み出され、地球内部との接がりを作った時代」が「アトランティス」であるという。「太陽光」が地球を取り巻く太陽光による夢通信網を指し、「地球内部との接がり」は地球を人体に見立てる「地球医療」上の地球内部の臓器（実際は内部に浸透した霊たち）と夢通信網である「経絡」とのつながりとすればこのリーディングは私の探ったこととよく符合する。「結晶」は勿論「地球結晶」を指すのはいうまでもない。しかしこの放射力を原爆と解釈している。

「島々に分裂され大陸に異変が起きた時代のアトランティス」は二万五〇〇〇年前のことであるとしている。沈んだアトランティス島はインドネシア、スラウエシ島の一部、福島県ぐらいたがスラウエシを取り巻くインドネシア群島は「アトランティス領域」である。ケイシーはアトラン

ティスを大西洋としているが今から二万五〇〇〇年以降に大西洋の何処を探してもそんな大島が沈んだ形跡はない。それなのにケイシーが見た「アトランティス」は群島になって

いた。実は彼も私同様にインドネシア群島に囲まれたスラウエシにアトランティスを見ていたのではないか。彼はアトランティスが群島になる前があり今から二万五〇〇〇年前のことであるという。地質学的にもインドネシア群島は今から二万年以前はボルネオ、スマトラ、ジャワなどユーラシアの一部であつてスラウエシや小スンダ列島も一つの太島になっていたことがわかつている。このことからしてケイシーのアトランティスもスラウエシに比定した方が無理ではないのではないか。またケイシーはアトランティス崩壊後、海没前に避難した多くのアトランティス人がエジプトに移住したがエジプトはもとアトランティスと深い縁があつたといっている。これも私が探りえたこととまったく一致する。「アトラ

ンティス」はギリシアの哲学者プラトンによって紹介され、ギリシアとアトランティスの戦争について書かれているが、ケイシーはアトランティスとギリシアに関しては一言も触れてはない。これも私の見解と一致している。

アトランティスからエジプトに来た人々は「アトランティス人のための記録庫と同時に、秘伝の宮であるグレート・ピラミッドの建造に関わつた。」「今一つはエジプトのスフィンクスから記録宮へと続く記録所にある。」このグレート・ピラミッドはギザの三大ピラミッドと違っていて未発見のものに違いないとエヴァンスはいう。

さらにアトランティスの記録は「太陽が水平線から上昇し、その影（または光）の線がスフィンクスの両手の間に落ちる所に横たわっている。」と。この三点ともほとんど同じことを私も探り当てているのだ。

ケイシーはアトランティス時代に白黒、赤、茶、黄、の五大民族が一民

族一場所、計五つの場所で同時出現したともいう。私はアトランティス時代、世界は一〇カ国に分かれそのうち二国ずつ火、金、木、土、水を受け持ち、火は赤、金は白、木は青、土は黄、水は黒をあらわしていることをつきとめていいる。私の五色は人種別ではなく五原色がそのまま人体の五蔵六腑を示している地球医療上の分担臓器、器官のことなのである。

エドガー・ケイシーは超能力者だが私にはそんな能力はない。それでも今から一万二〇〇〇年以前のアトランティス文明に関して驚くほどよく似た結論に達している。

超能力者とは言葉を変えれば霊能力に卓越しているということだ。

彼が一万二〇〇〇年以前を透視できるのは生きたまま霊となつてその時代に飛行できるからだ。しかし私にそんな芸当はできるわけではない。それなのに何故超能力者とはほぼ同じ程度に超古代風景を見られるのか。

イワクラは間違はなくアトランティス文明の痕跡である。といっても巨

石遺構がアトランティス時代のものだとなるのではない。文明を伝承した人々によって築造されたのであつて築造年代を問題にしているのではない。

イワクラは巨石を見上げるほどに積み上げていて、よくもまあ、あんな重いものを運び上げ積んだものとその技術に感心する。どんな技術なのかは不明だがイワクラの完璧形はピラミッドだ。これも構築技術は不明のまま。つい最近NHKで構築方法の発見を放映していたがあれは明らかに錯誤だ。矛盾する推理が何ヶ所かあつた。はつきりいつてまやかし、誤魔化しだ。

『イワクラハンドブック』も斯様な復元法の一部を公開することに違いない。

了